

マレーシア春期英語研修報告書

都市環境学部都市政策科学科 2 年山崎友優也

学校・授業について

研修期間中通った学校は Wisma R&D という建物に入っている UMCCed "University of Malaya Centre for Continuing education" というマラヤ大学の附属機関でした。授業は基本的に IELTS の教科書に沿って Listening, Writing, Reading, Speaking の授業を行うものでした。午前 2 授業、午後 1 授業で、主に一人の先生が複数の生徒を教え、生徒から意見を引き出しながら進行するものでした。(Speaking の授業では 2 クラス合同授業のこともあった。) グループワークで他のクラスメイトと話し合ったり、即興で課題に対する自分の意見を主張したりと日本語は一切通用しない環境での Speaking の授業は貴重な機会だと思いましたし、とても良い経験を得られたと思いました。クラスメイトは首都大生とタイ出身の兄妹との他は皆中国人で、当然英語が母語ではない人だけなので英会話のハードルは低めで、私は英語に自信がありませんでしたが、話しやすく感じました。

AAJ “Ambang Asuhan Jepun”の学生との活動

この研修では、日本に留学すべく日本語を学ぶ AAJ の学生と交流しながらマレーシアの文化・自然を経験できるプログラムが週末に設定され、全 3 回ありました。

初回は AAJ の学生がマレーシアの文化を体験させてくれて、マレー語やマレーシアの遊び (Congkak<ボードゲーム>や Gasing<コマ>、Ceper<ビンの蓋のおはじき>)、民族衣装 (Baju Melayu と Baju Kurung) を教えてくれました。

第 2 回は港湾都市マラッカに行きました。マラッカリバークルーズでマラッカ川に沿ってマラッカの街並を眺め、中国仏教寺院の青雲亭、カンポンクリンモスク、オランダ広場、マラッカ海洋博物館をめぐり、マラッカを一望できるマラッカタワーにも上りました。最後に「水上モスク」として有名なマラッカストレイツモスクを訪れました。海と空を背景に白壁が美しい立派なモスクでした。



第 3 回はタマン・ボタニ FRIM という自然公園で、マレーシアの自然に触れることができました。熱帯雨林らしく葉の大きな植物が多く、森林は樹木の層を成していました。ガイドの方が資料館や森林を案内してくれ、ツパイなどの動物も見られました。

AAJ の学生は研修期間中バレーボールや朝食に誘ってくれ、互いに日本やマレーシアについて教えあうなど、楽しい思い出をたくさんもらいました。友好的で親切なだけでなく、留学のために理系科目を日本語で勉強し、将来を見据えて挑戦する彼らには尊敬の念を抱きました。

マレーシアでの生活

・環境

気候はやはり温暖で、25度と35度を行ったり来たりの毎日でした。夕方に突然スコールが降るので、濡れてもいいようにサンダルを履くようにしていました。朝は明るくなるのが遅く、夜も日が落ちるのが遅いので不思議な感覚でした。蚊は思ったほど見ず、ほとんど刺されませんでした。町の環境は日本と比べてしまうと汚くは感じます。インドハッカやチョウショウバト、コウライウグイスなど日本では見たことのない鳥が普通に見られたのは面白かったです。アザーン（礼拝への呼びかけ）が大学でも流れ、イスラムの国にいることを実感できます。

・買い物・観光など

大学南の駅前のショッピングモールにはスーパーやカフェ、ダイソーなどが入っており、学校の帰りなどによく買い物に行きました。また寮にも売店があり、パンやお菓子、水などを買っていました（ちなみに水は Wisma R&D の階段途中の冷水機ならただで手に入る）。他にも電車や Grab タクシーを利用して、ミッドバレーや KL セントラル、ブキッ・ビンタン、チャイナタウンでも買い物をしました。食事は寮か Wisma R&D の食堂、もしくは上述のショッピングモール等に行き、とっていました。放課後や休日には首都大生やクラスメイトと一緒に観光やショッピングにも行くことができました。



・大学施設

寮のトイレはレバーの回し方にコツが要り、流れない場合は備え付けのホースから水を出して流しました。大学敷地内にはトレーニング用の公園のような場所や、シングルのカヤックが2リングで乗れる池、図書館もあり、充実しています。大学のWi-Fiはパスワードが教えられるまで使えないので注意、またひと月に一度パスワードが変更されるのでそれも注意。Wisma R&D に入る際にはドアを開けるのにカードが必要のため、まだもらえていない場合は誰かが入る瞬間を待つしかありません。



・困ったこと

寮の食堂のメニューはほとんどがマレー語で書いてあるので、不安な場合はビュッフェ形式のものがおすすめ。また、英語が話せない店員さんもいるので、マレー語の1〜10くらいは覚えた方がいいかもしれません（5を”Lima”と言われて困りました）。洗濯機が寮の最下階にあるのですが、カードを用意してもらい、それにお金をチャージする必要があります。しかし、職員がいることは滅多にないので、いたら早めに用意してもらうことを勧めます。寮から Wisma R&D へ向かうためには横断歩道のない車道を何回か渡る必要がありました。その時は、車の流れをよく見て、周りの人にあわてて合わせず、自分が確実に渡れると思ったタイミングで速やかにわたることが大切です。